

植物「からむし」使い

直江兼続ゆかりの足袋

衣料品の企画・販売会社であるネオ昭和（新潟県十日町市、村山好明社長）は上杉謙信や上杉家の家老、直江兼続が生産を奨励したイラクサ科の植物「からむし」から作った足袋を発売した。二〇〇九年のNHKの大河ドラマで直江兼続が取り上げられる。商機とみて、からむし関連の商品開発に力を入れる。



「からむし」と呼ばれる植物から作った足袋

ネオ昭和が発売

足袋は三月二十日開催の大河ドラマ関連イベント用に開発。泉田裕彦知事や篠田昭新潟市長らが足袋をはいて出席した。イベント後、受注生産を開始。年間で百五十足程度の販売を見込む。価格は四千七百二十五円。

今後はからむしを原料とした紙なども開発する。からむしは茎の繊維を織物に使う。加工に手間がかかり、木綿栽培が本格化した十六世紀以降、徐々に使われなくなった。ネオ昭和はからむしを使った衣服を十年前から開発しており、靴下や腹巻きなどを販売している。通気性に優れ、虫食いも少ないという。